

「中心静脈カテーテル挿入・抜去に係る死亡事例の分析」
 - 第2報（改訂版） - に関するWebアンケート集計結果（速報）

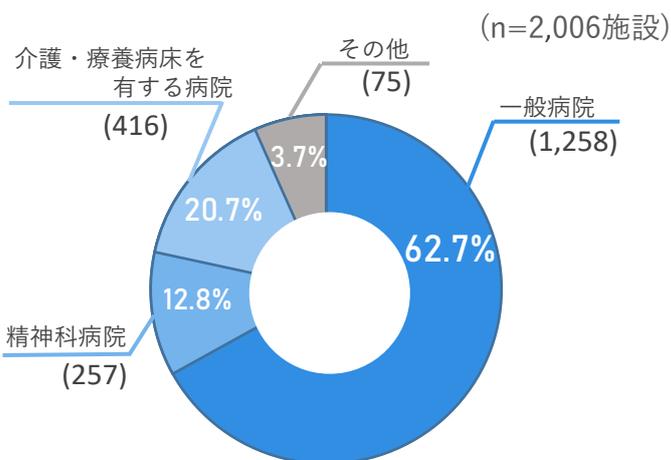


提言第17号 Webアンケート実施概要

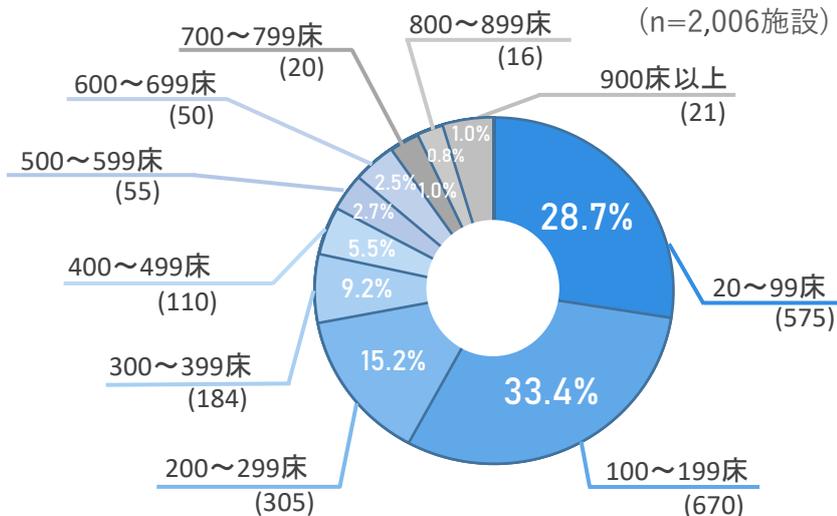
調査期間 2023年11月17日～2月16日
 調査対象 8,115施設
 回答数 2,006件
 回答率 24.7%

施設について

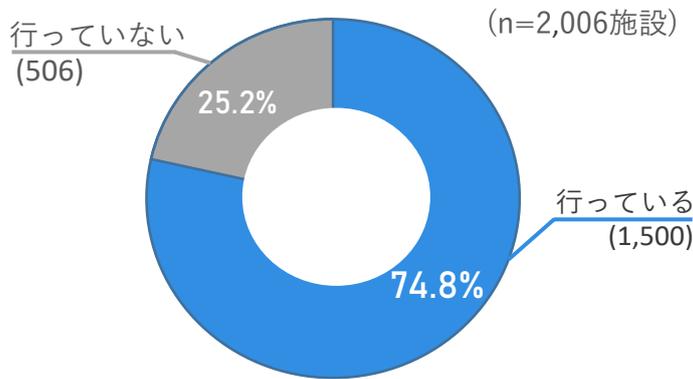
医療機関の種類別



病床規模別

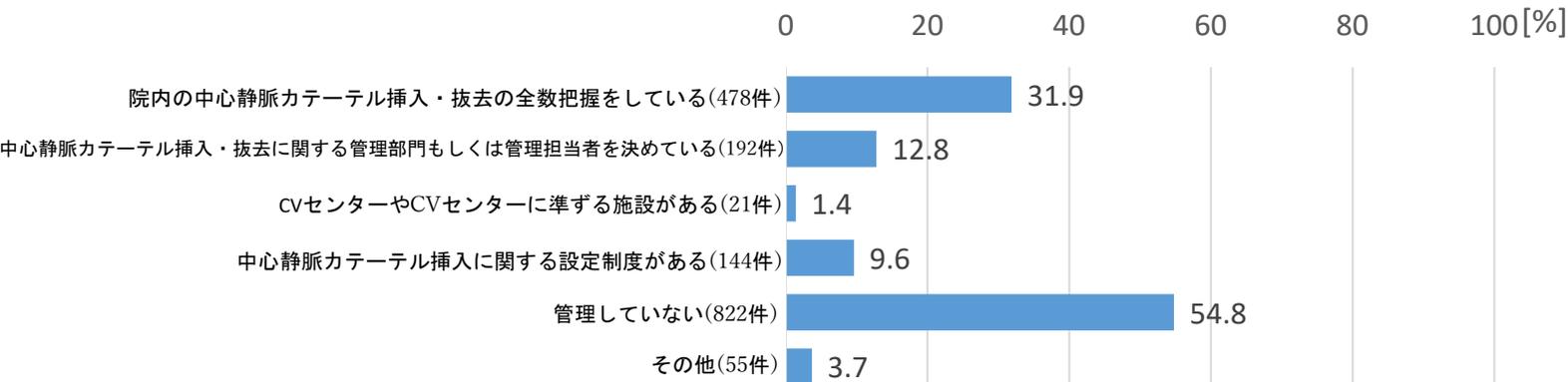


cvc挿入・抜去実施施設

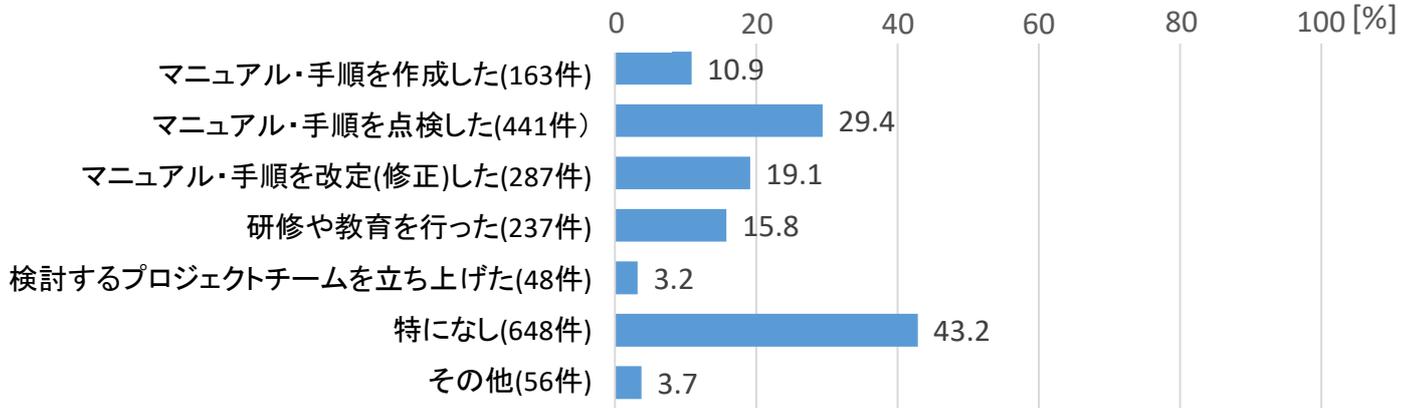


組織としての管理状況

■ 組織として管理していること (n=1,500施設) 複数回答



■ 挿入・抜去にあたり、見直した内容や新たに組み組んだこと (n=1,500施設) 複数回答



■ 他の医療機関と共有したい取り組み(具体的内容) (n=1,500施設)

- 採用品を使用頻度ごとに一覧にしたところ、使用頻度が少ないものや、ほぼ同じ製品が複数種類あることがわかった。様々な診療科から製品の申請があり、全体像をつかめないままに採用していることが多かったが、院内採用品の全体像について把握し、その時の安全情報に基づき最適化する業務を今後定期的に行っていくべきと思った。
- PICC挿入・抜去の特定行為看護師の手順書等を医師を含めた他職種のワーキングメンバーとともに作成した。
- 抜去後、密封ドレッシング材を使用していない医師がいるということがわかり、密封ドレッシング材を使用するよう医療安全NEWSで周知した。また、動画をダウンロードし、電子カルテ上で閲覧（ログで閲覧確認）できるようにして提言の周知を行った。医師は動画の全部、看護師は一部を閲覧するように促した。
- CVC、PICC業者協力のもと、教育講義とそれに引き続きハンズオンセミナーでキットの内容確認とエコーガイドの挿入手技を行った。専攻医が研修医達に教える様子があり、認定制度を作る上での足がかりになると感じた。
- 医師のライセンス制度を導入し、専門の医師が教育、管理を行うことで、有害事象が減少した。

解説動画（提言の概要）活用状況

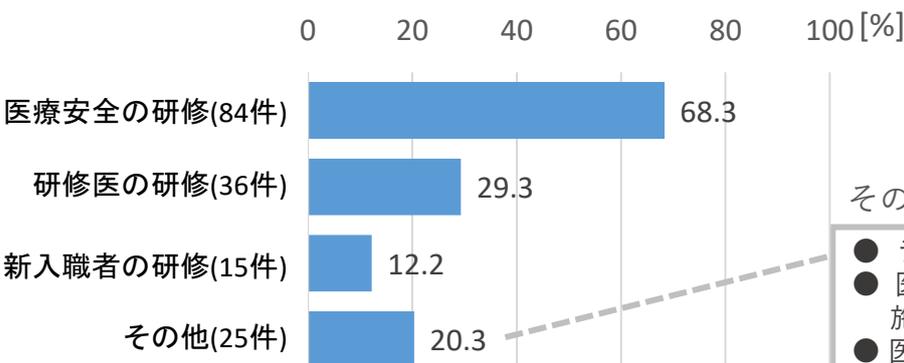
■ 解説動画(提言の概要)の周知率 (n=1,500施設)



■ 活用状況 (n=522施設)



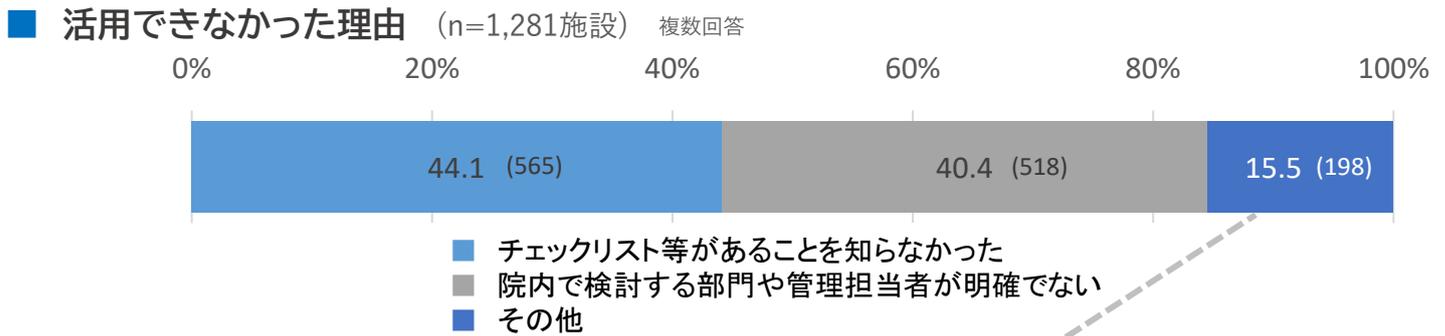
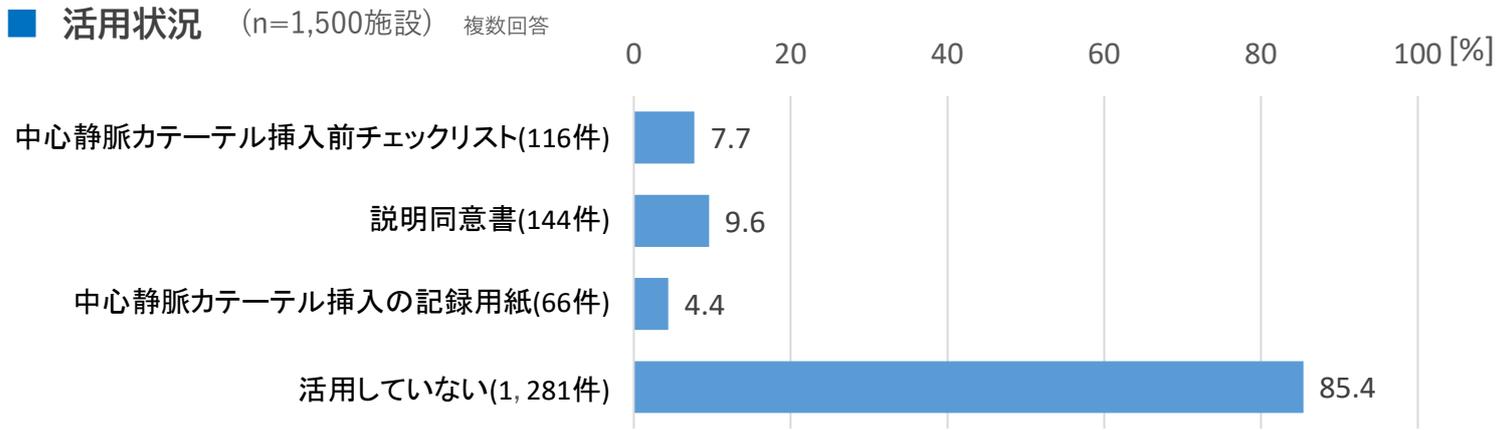
■ 活用した研修 (n=123施設) 複数回答



その他の主な内容

- ライセンス取得用e-learningに一部使用した。
- 医局会で医師に医療安全室長からの研修を実施した。
- 医学生実習の医療安全講習の際に利用した。

チェックリスト、同意書、記録用紙の活用状況

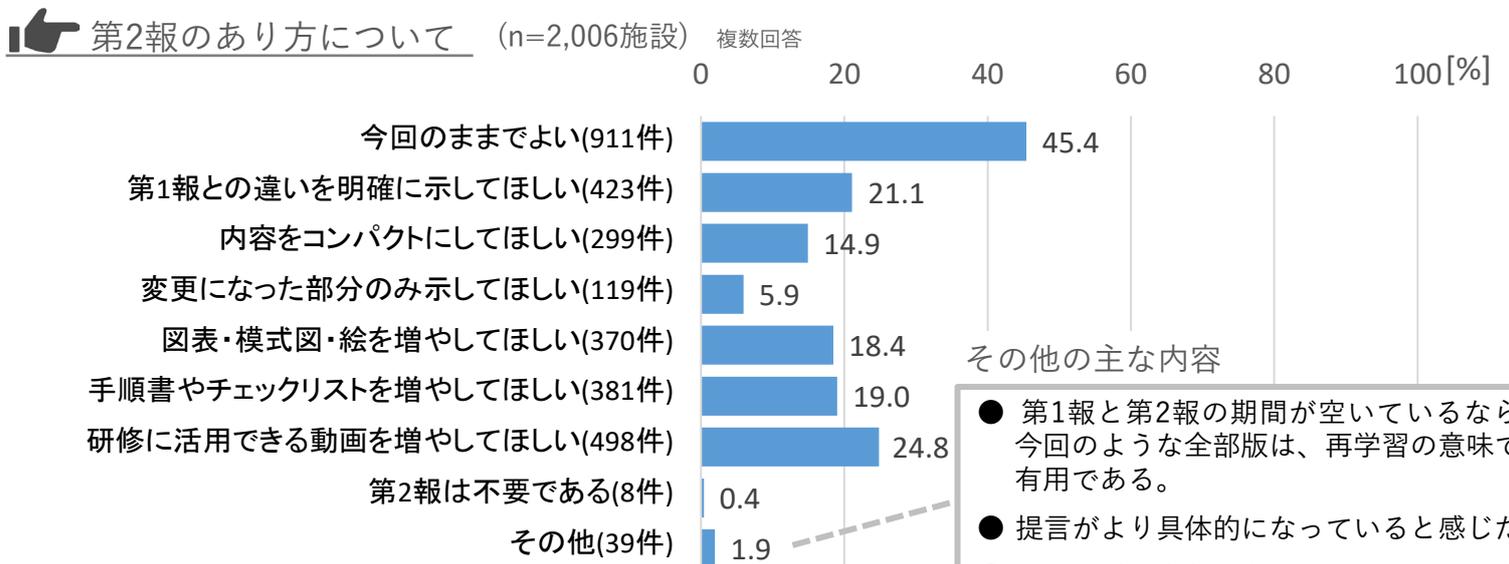


- チェックリスト等があることを知らなかった
- 院内で検討する部門や管理担当者が明確でない
- その他

その他の主な理由

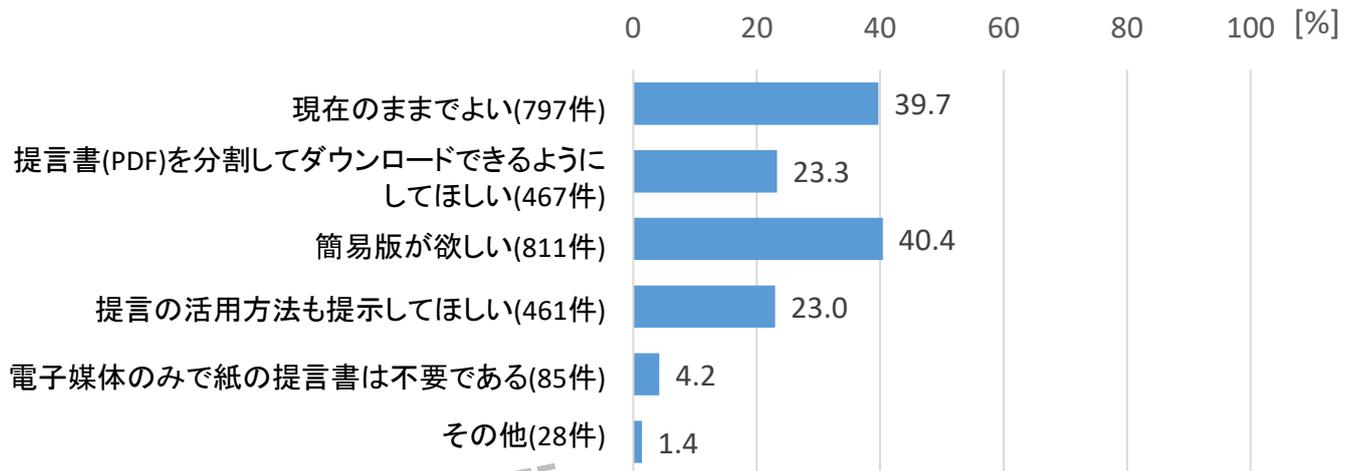
- 見直しを検討しているところである。
- 中心静脈カテーテル挿入件数が少ない。
- 院内で作成したマニュアルやチェックリスト、同意書があるため、変更の必要性を感じなかった。
- 医療安全管理者の立場では活用したいが、CVカテーテルを挿入している医師の協力が得られない。また、現場の看護師も必要性を感じておらず、同意が得られなかった。
- 項目や分量が多く、医師の人数が少ないことから、現場での実施が困難と思われた。
- 安全管理室で活用することまで考えが及ばなかった。

提言書について



その他の主な内容

- 第1報と第2報の期間が空いているなら、今回のような全部版は、再学習の意味で有用である。
- 提言がより具体的になっていると感じた。
- 安全に手技を行うためにチェックリスト等の活用は理解できるが、煩雑過ぎて現場におろすことが難しい。



提言書の工夫



- 医療安全業務に携わっている者にはとても参考になるが、一冊の中身が濃いため、職員が興味を持ちにくい。
- 手順が多くて煩雑になることは必ずしも安全ではないともいえるので、簡便な方法も取り入れてほしい。
- 情報のスピード化

付録の工夫



- 医師中心の専門的な提言が多いが、看護師・副診療職員にも必要な内容が多いため、医師以外のものにもわかりやすい簡易版が欲しい。
- 提言書周知のために、ポスターなど目に留まるものがあれば、電子カルテの掲示板等に掲載できる。
- 提言原文と職員周知用ポスターと2種類あるとよい。提言一覧のような、年間でまとめたものがあると思いつききっかけとなる。

🗨️ 提言書へのご意見

- 以前に比べ写真や絵が多く非常に理解しやすいものとなった。また各種書類の例もあり、取り入れやすくなっている。既存の書類と比較することで世間の標準へとアップデートできる。
- 医師の協力・活動が不可欠だが、医療安全に興味をもつ医師は多くないため、院内では限界がある。各学会などでも積極的に取り上げてほしい。
- 提言の活用が課題のため、院内の提言書の活用について具体的に成功した事例を紹介してほしい。
- 中小規模の病院では、ある程度は整備できても、人員やシステムなどの関係で整備に困難さを感じる。今後は、各施設の取り組み事例なども紹介していただくとさらに参考になる。